

第45期
中間報告書

2010年4月1日～2010年9月30日



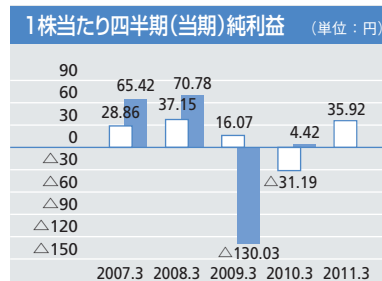
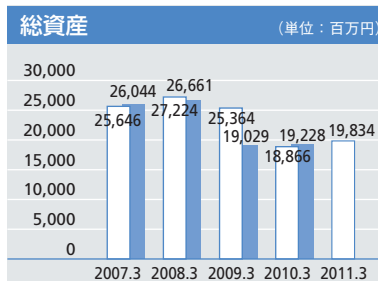
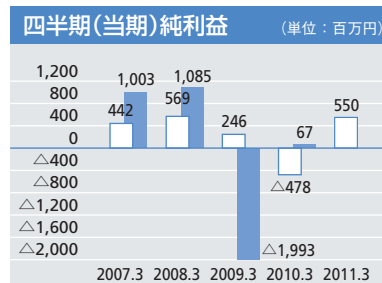
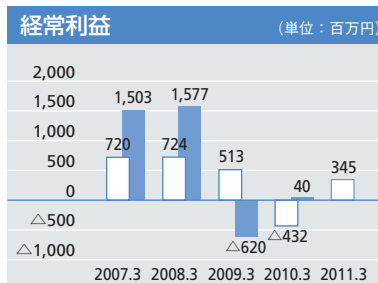
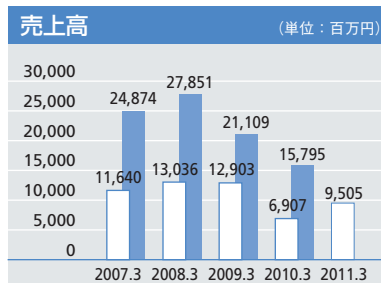
証券コード：6928

財務ハイライト (連結)

(2010年4月1日~2010年9月30日)

Business Highlights

■ 通期
□ 第2四半期累計



	07年3月期 第2四半期累計	08年3月期 第2四半期累計	09年3月期 第2四半期累計	10年3月期 第2四半期累計	11年3月期 第2四半期累計
売上高 (百万円)	11,640	13,036	12,903	6,907	9,505
経常利益 (百万円)	720	724	513	△432	345
四半期純利益 (百万円)	442	569	246	△478	550
純資産 (百万円)	12,362	13,772	13,660	10,319	10,923
総資産 (百万円)	25,646	27,224	25,364	18,866	19,834
1株当たり純資産 (円)	805.93	898.03	890.91	673.06	712.55
1株当たり四半期純利益 (円)	28.86	37.15	16.07	△31.19	35.92
自己資本比率 (%)	48.2	50.6	53.9	54.7	55.1
自己資本当期純利益率 (%)	3.6	4.2	1.8	△4.6	5.1

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別なるご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。第45期中間報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

エノモトグループは「経営の中心は人であり、健全な物造りを通じて、豊かな社会の実現に貢献する」という志を経営理念とし、1962年（昭和37年）の創業以来、多くのプレス加工に関する新技術を開発し、打ち抜き加工・曲げ加工・絞り加工・モールド加工等広範囲のジャンルの金型技術を確立し、また、日進月歩で軽薄短小化・高機能化・多機能化する市場ニーズに応えるべく、金属とプラスチックの超微細複合加工技術を確立し、日本の物造りに貢献して参りました。

その時代で求められる市場ニーズにエノモト独自の技術力を駆使し迅速に対応を図ってきたことにより、これまでにIC・トランジスタ用リードフレームをはじめ、リレー用部品、オプト用リードフレーム及びマイクロピッチコネクタ用部品へとその事業領域を順次拡大して参りました。

特に地球温暖化防止に貢献する省エネルギー関連製品として、急速に普及が進んでいるLED（発光ダイオード）に代表されるオプト用リードフレームをはじめ、ユビキタス時代の代表的なハードウェアである高機能携帯電話及びスマートフォン等のIT機器に搭載されているマイクロピッチコネクタ用部品は、今後の社会の発展を支えるキーテクノロジーの一つであると自負しております。また、それらの製品を世界中の主要メーカーに供給していることにより、当社グループが今後とも豊かな社会を実現するために必要な存在であり続けることが出来るものと信じております。

当社グループは現状に甘んずること無く、将来のユーザーニーズ及び地域的需要に対応すべく、積極的に最適生産体制の構築を進め、市場競争力の強化にも努めて参りました。現在、国内は本社地区工場（塩山、上野原、藤野）及び東北地区工場（津軽、岩手）等の計5工場体制、海外においてはシンガポール、フィリピン、及び中国（広東省）の計4工場の体制をとっており、グローバルな供給体制に対応できるア

ジアでも有数のスタンピングメーカーとして確固たる地位を確立しております。

当社グループは、今後益々グローバル化が進展し不確実性が増していく経営環境下において、力強く成長し続ける企業グループを目指し、2008年度より2010年度の3年間にわたる中期経営方針のもと事業展開を進めております。また、本方針のメインテーマとして『経営品質の向上と新たな価値の創造』を掲げ、経営機能の強化をはじめとする経営の高度化・深化を追求すると同時に、技術で生きる企業として、イノベーションを通じて新しい価値を創造し、次の時代を担う事業基盤を築き上げて参る所存であります。特に本年度は中期経営方針の最終年度にあたり、次への飛躍を図るための重要な足固めの一年として、ますます激化するグローバル競争の中で特にスピード感を持って事業展開を図りユーザーの皆様から一番に選ばれるサプライヤを目指して参ります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

2010年12月



代表取締役社長
榎本 正昭

事業別の概況

IC・トランジスタ用リードフレーム

2,753百万円 (29%)

当製品群は、車載向け、民生用機器向けが主なものであります。第1四半期より国内の自動車販売が好調に推移したことを背景に車載向けリードフレームの受注が高水準で推移しました。

第2四半期に入るとエコカー補助金制度の終了を見越し、生産調整局面に入ったことにより、需要は伸び悩みました。

その結果、当製品群の売上高は27億5千3百万円となりました。

コネクタ用部品

3,589百万円 (38%)

当製品群は、携帯電話向け、デジタル家電向けが主なものであります。第1四半期より、世界的にスマートフォンの市場が拡大傾向にある中で、当社のマイクロピッチコネクタ用部品の需要が堅調に推移しました。

その結果、当製品群の売上高は35億8千9百万円となりました。

オプト用リードフレーム

2,562百万円 (27%)

当製品群は、LED用リードフレーム及びレーザー用部品が主なものであります。エコ商品の代表として、薄型テレビや照明等を中心にLEDを使用した製品が市場に数多くリリース

されてきており、第1四半期におきましてもLED用リードフレームの受注状況は堅調に推移して参りましたが、第2

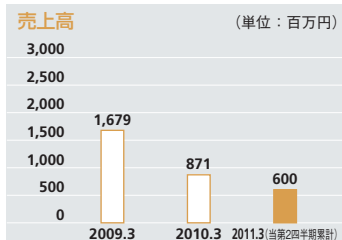
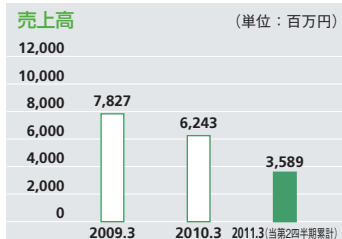
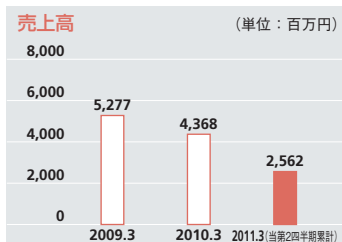
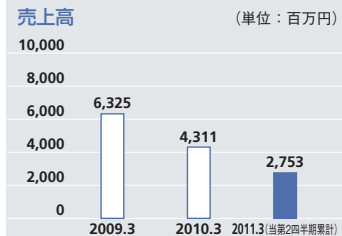
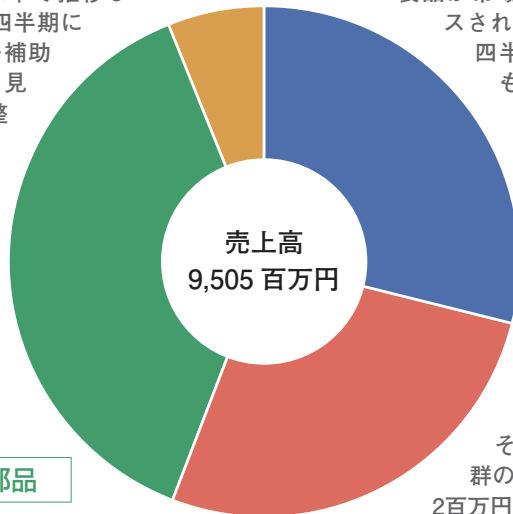
四半期以降、基板実装タイプ(SMD)の一部製品において、在庫調整の動きがでて参りました。

その結果、当製品群の売上高は25億6千2百万円となりました。

その他

600百万円 (6%)

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は6億円となりました。



第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間における経営環境は、国内の経済対策効果やアジアを中心とする海外経済の好調などに支えられて、企業収益の改善や輸出の増加、個人消費の持ち直し等が見られ、自立的回復への基盤が整いつつあるかのように思われました。

しかしながら、国内の雇用環境は依然として失業率が高水準にあり、本格的回復には至らない状況であります。

当社グループの主要な取引先であります半導体・電子部品業界におきましては、政府による各種景気刺激策の効果により、車載用デバイスの出荷が堅調に推移するとともに、薄型テレビやスマートフォンに代表されるIT・デジタル家電等の伸長、それに加え夏場の猛暑によりエアコンや冷蔵庫等の販売が増加したことにより、IC・トランジスタ用リードフレーム、LED用リードフレーム及びマイクロピッチコネクタ用部品の需要が大幅に回復いたしました。

しかしながら、第2四半期に入り、エコカー補助金の終了により、これまで高水準で推移してきた車載用リードフレーム、LED用リードフレームの需要に陰りが見られるようになりました。また、円高の進行が与える影響も懸念され、企業の経営環境は、必ずしも安心できる状況にはありません。

このような経営環境のもと、当社グループといたしましては、激化するグローバル競争で勝ち抜くため、今期の経営重点目標として「スピードを重視した対応」と「モノ造りへの新たな挑戦」をテーマとして掲げ、全社的な取り組みを通じて拡販に努めて参りました。具体的には、顧客窓口対応のスピードアップをはじめ、金型設計、金型製造、製品製造、そして検査・出荷に至る全ての業務において、スピードを重視した対応を推進するとともに、これまでの金型製造やプレス加工に関する技術体系の中で常識として扱われた分野についても、大幅なコスト削減や品質の向上といった目標のもとに技術的ブレークスルーを目指して技術開発を進めて参りました。

また、顧客からの要望が強いコスト対応につきましても、「工場を中心とした原価低減の推進」「労務費の適正化」「各種コストの更なる圧縮」等のスリム化策をはじめ

めとする製造固定費及び販売管理費の削減を通じて、より効率の高い生産体制の整備に努めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、95億5百万円（前年同四半期比37.6%増）となりました。また、営業利益は3億9千5百万円（前年同四半期は営業損失4億3千1百万円）、経常利益は3億4千5百万円（前年同四半期は経常損失4億3千2百万円）、四半期純利益は5億5千万円（前年同四半期は四半期純損失4億7千8百万円）となりました。

通期の見通し

第3四半期以降の見通しにつきましては、中国をはじめとするアジア・新興国が牽引役となり世界経済が緩やかな回復局面が続くと予想されるものの、当社グループを取り巻く経営環境につきましては、急激な円高や原材料価格の変動をはじめ、各部品メーカー間での熾烈なコスト競争の激化等の不安要素も多く、国内景気の先行きに対する不透明感が広がりがつつあることから、厳しい状況が続くものと見込まれます。当社グループとしては、益々激化するグローバル競争の中で特にスピード感を持って営業展開を図りユーザーの皆様から一番に選ばれるサプライヤを目指し、経営資源の効率的な活用、最適地生産の拡大等の諸施策を継続して推進して参ります。

当社グループの2011年3月期の通期の連結業績予想は、売上高183億5千7百万円（前期比16.2%増）、営業利益8億4千2百万円、経常利益7億7千8百万円、当期純利益7億9千7百万円を見込んでおります。

●通期の見込み

売	上	高	18,357百万円
営	業	利	842百万円
経	常	利	778百万円
当	期	純	797百万円
		利	
		益	

四半期連結財務諸表

■ 四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

(単位:千円)

科 目	前連結会計 年度末 2010.3.31	当第2四半期 連結会計期間末 2010.9.30	科 目	前連結会計 年度末 2010.3.31	当第2四半期 連結会計期間末 2010.9.30
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	6,781,820	7,869,580	流動負債	5,717,199	6,304,073
現金及び預金	1,296,633	1,762,623	支払手形及び買掛金	4,070,920	4,659,683
受取手形及び売掛金	3,442,653	3,662,681	短期借入金	731,960	594,030
商品及び製品	444,834	420,515	未払法人税等	46,974	36,682
仕掛品	632,561	836,608	未払消費税等	54,754	29,074
原材料及び貯蔵品	690,099	803,559	賞与引当金	242,000	418,000
繰延税金資産	137,463	209,904	事業整理損失引当金	19,465	—
未収入金	91,472	131,128	その他	551,124	566,603
その他	48,089	44,605	固定負債	2,894,252	2,606,990
貸倒引当金	△ 1,985	△ 2,045	社債	480,000	420,000
固定資産	12,446,845	11,964,848	長期借入金	940,650	738,600
有形固定資産	11,023,889	10,604,838	繰延税金負債	146,824	111,997
建物及び構築物	3,497,927	3,358,448	退職給付引当金	31,454	33,580
機械装置及び運搬具	3,529,476	3,192,367	役員退職慰労引当金	670,200	682,749
工具、器具及び備品	282,937	330,657	リース債務	54,919	49,858
土地	3,548,485	3,548,485	再評価に係る繰延税金負債	570,203	570,203
建設仮勘定	165,061	174,878	負債合計	8,611,451	8,911,063
無形固定資産	152,122	153,611	(純資産の部)		
投資その他の資産	1,270,833	1,206,398	株主資本	11,574,033	12,047,693
投資有価証券	461,958	426,114	資本金	4,149,472	4,149,472
前払年金費用	285,609	256,331	資本剰余金	4,459,862	4,459,862
繰延税金資産	6,371	5,185	利益剰余金	2,972,618	3,446,574
その他	566,600	564,852	自己株式	△ 7,919	△ 8,215
貸倒引当金	△ 49,706	△ 46,085	評価・換算差額等	△ 956,818	△ 1,124,328
資産合計	19,228,666	19,834,429	その他有価証券評価差額金	30,200	△ 3,814
			土地再評価差額金	△ 301,156	△ 301,156
			為替換算調整勘定	△ 685,862	△ 819,357
			純資産合計	10,617,215	10,923,365
			負債純資産合計	19,228,666	19,834,429

Point 1 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前期に比べ6億5千万円増加し、198億3千4百万円となりました。流動資産は、需要が比較的安定してきたことにより、売上債権及びたな卸資産等が増加し、前期に比べ10億8千7百万円増加の78億6千9百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が減少したことにより、前期に比べ4億8千1百万円減少の119億6千4百万円となりました。

一方、負債合計は、前期に比べ2億9千9百万円増加し、89億1千1百万円となりました。これは有利子負債が減少した一方仕入債務が増加したものであります。

また、純資産の部は、四半期純利益5億5千万円等の利益剰余金の増加により、109億2千3百万円となりました。

この結果、自己資本比率は、55.1%となりました。

Consolidated Financial Statements

■ 四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	前第2四半期	当第2四半期
	連結累計期間 2009.4.1~2009.9.30	連結累計期間 2010.4.1~2010.9.30
売上高	6,907,711	9,505,020
売上原価	6,594,755	8,142,695
売上総利益	312,956	1,362,325
販売費及び一般管理費	744,867	966,481
営業利益又は営業損失 (△)	△431,911	395,843
営業外収益	107,000	48,679
営業外費用	108,042	99,410
経常利益又は経常損失 (△)	△432,953	345,113
特別利益	1,116	175,358
特別損失	27,202	26,686
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失 (△)	△459,039	493,785
法人税、住民税及び事業税	6,296	28,490
法人税等調整額	12,925	△85,316
法人税等合計	19,221	△56,825
少数株主損益調整前四半期純利益	—	550,610
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△478,261	550,610

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	前第2四半期	当第2四半期
	連結累計期間 2009.4.1~2009.9.30	連結累計期間 2010.4.1~2010.9.30
営業活動によるキャッシュ・フロー	318,697	1,025,599
投資活動によるキャッシュ・フロー	△175,014	△51,932
財務活動によるキャッシュ・フロー	△410,039	△490,092
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,779	△17,585
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△258,577	465,989
現金及び現金同等物の期首残高	1,093,415	1,296,633
現金及び現金同等物の四半期末残高	834,837	1,762,623

Point 2 キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物 (以下「資金」という。)は、前期末に比べ4億6千5百万円増加し、当第2四半期連結累計期間末には17億6千2百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

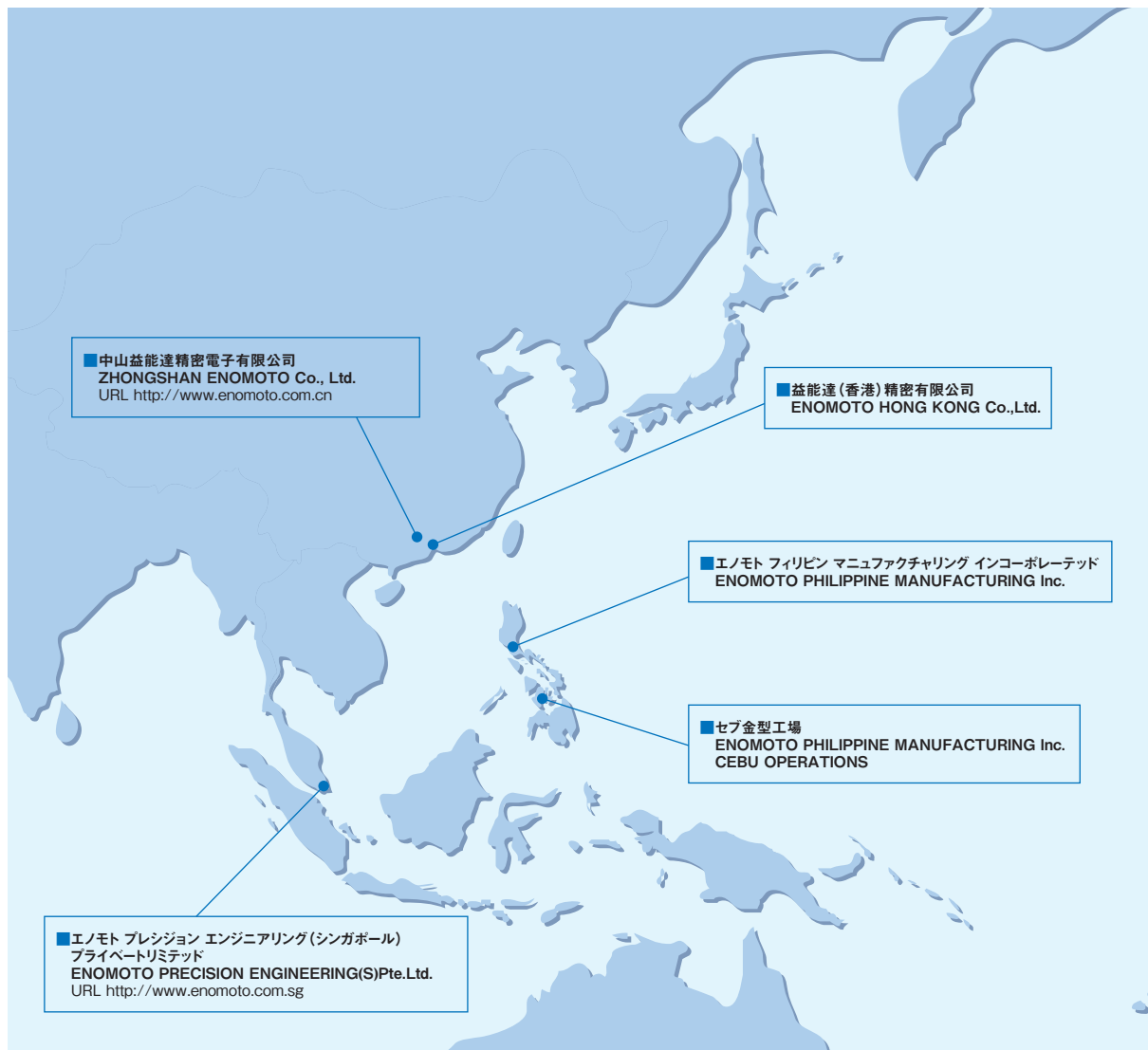
営業活動の結果得られた資金は10億2千5百万円 (前年同四半期比221.8%増) となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益4億9千3百万円の計上、減価償却費5億5千3百万円及び仕入債務の増加6億4千万円による資金の増加、売上債権の増加2億8千万円及びたな卸資産の増加3億2千万円による資金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は5千1百万円 (同70.3%減) となりました。これは主に有形固定資産の取得2億3千4百万円による資金の減少、有形固定資産の売却による収入1億6千8百万円による資金の増加であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は4億9千万円 (同19.5%増) となりました。これは主に長期借入金2億8千9百万円の返済及び社債の償還6千万円によるものであります。



■会社概要 (2010年9月30日現在)

社名	株式会社エノモト
本社	山梨県上野原市上野原8154番地19 TEL 0554 (62) 5111
創業	1962年7月1日
資本金	4,149,472千円
従業員数	569名 (男子518名、女子51名)
事業内容	各種電子部品用プレス加工品及び 射出成形加工品の製造販売
子会社	ENOMOTO PRECISION ENGINEERING (SINGAPORE) Pte.Ltd. ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc. ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd. ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.

■役員 (2010年9月30日現在)

取締役会長	榎本保雄	取締役	伊藤一恵
取締役副会長	榎本信雄	取締役	武内延公
代表取締役社長	榎本正昭	常勤監査役	倉田明保
専務取締役	山崎宏行	監査役	海野勝
取締役	佐藤益男	監査役	小野勝彦
取締役	櫻井宣男		

■工場・営業所

リードフレーム事業本部・営業部
〒409-0198 山梨県上野原市上野原8154番地19
TEL 0554 (62) 5113 FAX 0554 (62) 4319

塩山工場
〒404-0036 山梨県甲州市塩山熊野666番地
TEL 0553 (32) 1111 FAX 0553 (32) 1159

上野原工場
〒409-0198 山梨県上野原市上野原8154番地19
TEL 0554 (62) 5115 FAX 0554 (62) 4089

コネクタ事業本部・営業部
〒409-0198 山梨県上野原市上野原8154番地19
TEL 0554 (62) 5112 FAX 0554 (63) 2633

藤野工場
〒252-0181 神奈川県相模原市緑区佐野川2350番地
TEL 042 (687) 5111 FAX 042 (687) 4878

津軽工場
〒037-0017 青森県五所川原市大字漆川字玉椿191番地1
TEL 0173 (33) 0570 FAX 0173 (34) 5206

岩手工場
〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39番地
TEL 0193 (42) 8511 FAX 0193 (42) 8513

ホームページのご案内

<http://www.enomoto.co.jp>

最新の当社IR情報等をご覧ください。



■ 株式の状況

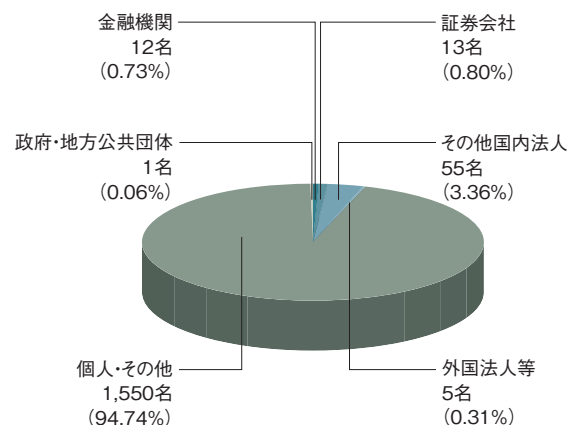
発行可能株式総数	37,600,000株
発行済株式の総数	15,348,407株
株主数	1,830名

大株主

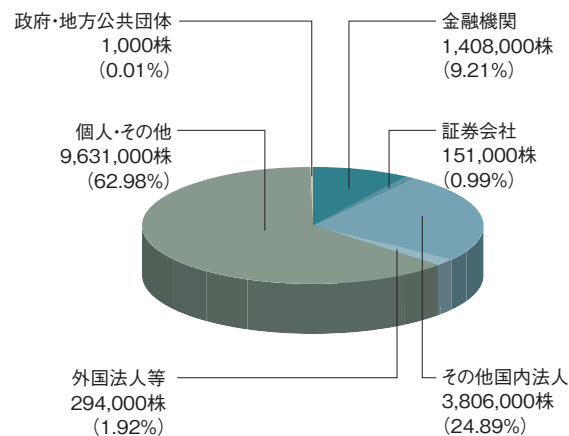
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社エノモト興産	2,000	13.0
有限会社エムエヌ企画	1,098	7.1
榎本保雄	700	4.5
エノモト従業員持株会	459	2.9
株式会社山梨中央銀行	453	2.9
榎本信雄	365	2.3
竹田和平	252	1.6
ビーエヌピー・パリバ・セキュリティーズ・サービス・ ルクセンブルグ・ジャスデック・セキュリティーズ	246	1.6
榎本貴信	230	1.5
櫻井宣男	224	1.4

(注) 持株比率は自己株式(18,436株)を控除して計算しております。

所有者別株主数比率



所有者別株式数比率



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店及び全国各支店並びに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・「配当金計算書」について
配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金のお支払の都度「配当金計算書」を同封させていただいております。
*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6928

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶ と4文字入れて検索してください。



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

ENOMOTO Co.,Ltd.

